

国語の授業の交流における授業改善

～個のつまずきに応じた個別指導の在り方について～

根本小学校 今井 英津子

1 授業改善の視点

ワークシートに考えを書く時における個のつまずきに応じた個別指導の在り方

2 具体的な実践

(1) ワークシートの工夫

- ① 丁寧な文字を書くことが苦手な場合
〈書く部分をマス目のついたものにする〉
 - ・マス目を意識して丁寧に書くようにする。
その学年や個人に応じた大きさを準備する。
- ② 書くことに抵抗感をもっている場合
〈自分が書く量に合わせて選ぶ〉
 - ・考えを書く部分を、行形式の線のみのも
とマス目のついたものにする。自分で好き
な方を選ぶことにより、これだけ書かな
ければという抵抗感を減らすことができ
る。
- ③ 集中することが苦手な場合
〈本文の部分と考えを書く部分を分ける〉
 - ・一度にたくさんの情報量があると、どこか
から考えを作ったらよいか分からなくな
ってしまい、集中することができにくくな
ると考える。そのため、本文とひとり読み
を書く面とまとめや考えを書く面を分け
ることにより、児童に与える情報量を制限
することができる。

(2) 書く内容をはっきりさせる工夫

- ① 視覚から理解することに適している場合
〈具体物や挿絵を有効的に使う〉
 - 具体物・・実際の長さのテープ・声の大きさ
に対応させた大きさの文字
 - 挿絵・・教科書にはない部分の絵本などの挿
絵（主人公の表情・周りの情景）



[声の大きさに対応した文字の大きさ]

- ② 自分の思いをもつことに抵抗がある場合
〈動作化や体験を大切にする〉
 - 動作化・・くじらぐもに飛び乗る様子の動作
化マイクを使ったインタビュー
での気持ちの表出
 - 体験・・干し飯を食べてみる



[動作化後にマイクを使ったインタビュー]

- ③ 学習の流れをとらえることに抵抗がある場合
〈板書や掲示物を大切にする〉
 - ・着目させたい言葉を種類別に色を変えた
フラッシュカードを使う。

- ・前時までの学習の足跡が分かる掲示をする。
- ・様子が理解しにくい戦時中の写真を掲示する。



[前時までの学習の足跡]

- ④ 考えを持っているが文章に表すことに抵抗がある場合
 - ・まとめを書く時に、書き始めの書き方の指示をしたり、キーワードなど使う言葉の指定をしたりして、書く内容や書き方に見通しをもたせる。

(3) 机間指導の工夫

① 机間指導の順番を考える

〈全体への指示では理解しにくい場合〉

- ・何をしてもよいのか分からないことが多いので、指示を与えた後すぐにその児童の所に行き、書き始めの指示を与えたり、言葉をかけて考えを表出させたりすることにより、取りかかりをスムーズにする。

取りかかれたことや、書いたことに対して認め、ほめていく。

〈集中力が続かない場合〉

- ・自分の考えを書き終えた頃にその児童の所に行き、次の活動の指示を与える。できたことを認め、ほめていく。

② 形成的評価を大切にする

〈全体の中で集中力が続かない場合〉

- ・形成的評価を随時入れ、短いスパンで振り返りができるようにする。認め、褒めていき自信につながるようにする。

3 実践を振り返って考えられること

児童がつまずくであろう内容を予想してワークシートを作ったことが、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。また、ひとりひとりのつまずきを予想して、早めに手助けをすることで、集中力を持続して学習することができた。

個々のつまずきを予想して手立てを打つことは、全体の児童への助けにもなる。日々の様子から、子どもがどんなことにつまずき、どのような手立てを打っていくと効果的であるかを考慮していく必要がある。